近年の地域の変化と新型コロナウイルス感染症が千代田のつながりとコミュニティに起こした課題を乗り越えるための16の問い

2020年2月から国内でも広がった新型コロナウイルス感染症は、千代田区の地域での活動にも大きな影響を与えました。祭りやイベントが休止、延期、規模の縮小などが求められ、千代田に通勤、訪問する人も減る中で、活動やつながりも難しい状況が生じています。その一方で、困難さを乗り越えて、工夫してできることを始めよう！新しい千代田の暮らし、仕事、活動、学びの価値を生み出そう！という方も多数いらっしゃいます。

本レポートでは2021年3月13日開催「ちよだコミュニティラボライブ！2021」で話し合われた内容をもとに、千代田のこれからを考える、地域で活動する方の声をご紹介します。

新型コロナウイルス感染症の広がりが地域に与えた影響

- テレワークや遠隔授業が広がり、在勤・在学者の訪問が減少
- イベントや祭りの多くが休止、延期、規模縮小
- 外出減で高齢者の体力低下、孤立の懸念も
- 地域のつながりが見えづらい。活動継続の懸念も
- 店舗の来客減少、不動産利用の見直しなど経済的な影響も

chiyolab.jp
CHIYODA COMMUNITY LAB

2020年度ちよだコミュニティラボの活動をふりかえる

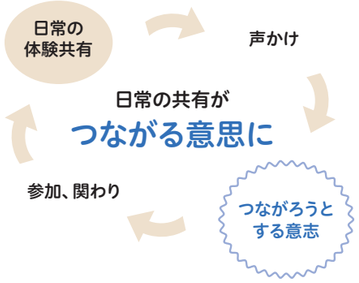
コロナの中で考える、つながろうとする気持ち

COVID-19の拡大は地域のつながりにも大きな影響を与えました。祭りなど伝統ある行事、定期的に行ってきた活動が止まり、会合もなくなった上に、感染症対策で人と人が物理的に離れたことで、心の距離も離れがちな状況が起きてしまいました。

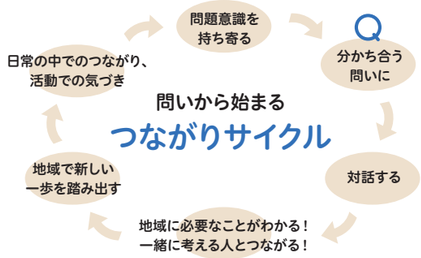
ただ、地域の方々は活動の自粛や委縮のみをしていただけではありません。「つながりたい」「話したい」という気持ちから、手紙、電話などでの連絡、声かけ、オンライン会合の導入、感染対策をしながらの体操や見回りなど、状況の中でできることを考え、実践していました。

オンライン会合についても、「高齢者はITが苦手だから難しい」と言われていましたが、つながりたい気持ちがあれば、周囲のサポートによって技術面の課題は何とかなるという声も多くありました。

日頃からつながっている人とは困難な中でも「つながろう」という意志が生まれること、逆に言うと、日頃のつながりの大切さを改めて考えた一年でした。



思いを言葉にし、問いを分かち合うことで、出会いが始まる



今年度、多くの地域活動が休止や十分にできない状況にある中で、どのような交流の場が求められているのか？

活動している方にご意見を伺ったところ、「地域の現場で感じる千代田の新しい課題について、多様な人と一緒に考えたい！一緒に新しい動きをつくりたい！」という声を多数いただきました。

その声によって、ちよだコミュニティラボライブ！2021は、活動者の問題意識を持ち寄り、そこから生まれたテーマで対話をする場として開催しました。結果的に40以上の問題意識が寄せられ、生まれたのが、本資料の16の問いです。

地域の現状や課題が外部から見えづらくなる中、それぞれの現場での気づきを声にし、共有することから、つながりが生まれることに改めて気付くことができました。

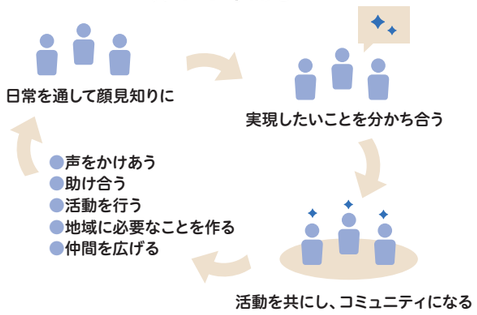
ラボライブ！2021 アンケートより

- 日頃、話さない多様な世代の方と話せました。同世代の活躍を心強く感じました。
- それぞれのやり方や状況は違っても、目指すところは同じ方が多くおられることに驚きました。
- 同じ問題意識を共有している方々がいらっしゃることが分かり自信を持てました。
- このイベントも今年はオンラインで新たなステージに入ったと感じました。

つながり、コミュニティのあり方を改めて考える

元来、コミュニティは、近所に暮らすなど日頃から顔を合わせる人たちが、地域に必要なこと、あったらいいことを共有し、祭りや活動などを共に行うことを通してつながりを深めることで生まれてきました。そのつながりを維持し、活動を継続するための仕組みとして、町会などの組織ができたのです。

今年度、これまでの活動は立ち止まらざるをえない状況に陥りました。その中で「つながっていた人とはつながり続けたい」「自分の思うことを共有し、それを一緒に考えたい」という動きが生じたことは、これからの千代田でのつながりを広げ、深めることへの大きなヒントとなるでしょう。



ちよだコミュニティラボ
chiyolab.jp

事務局
千代田区コミュニティ総務課
株式会社エンパブリック

お問合せ　千代田区コミュニティ総務課
03-5211-3656
komisoumu@city.chiyoda.lg.jp

2021年3月31日発行

新型コロナウイルス感染症の広がる中での

ちよだコミュニティラボの取組み

新型コロナウイルス感染症の拡大が地域の活動に影響を与える中、地域で活動する方たちから、
活動の状況や感じる課題、工夫をお聴きし、そこで得た情報を共有する取組みを進めました。

活動の状況把握と対応策の検討

オンラインミーティングの開催

地域の活動団体の状況や感染への対応方法を共有するため、オンライン会議による交流会を開催。
（4/27、28、5/25、27、6/20、24）

電話ヒアリングの実施

各地区の町会の役員の方、地域活動実践者、消防団、区関連施設の方などへの電話で活動状況を把握。
（6月～7月）

感染症対策の情報収集とWEBでの情報発信

- 各業界、専門機関等による新型コロナウイルス対策をしながらの活動ガイドラインを収集し、紹介
  例）・東京都健康長寿医療センター研究所「地域の通いの場の再開に向けた新型コロナウイルス対策ガイド」
  ・東京都ロードマップ～「新しい日常」に向けて
  ・東京ボランティア・市民活動センター「新型コロナウイルス影響下でのボランティア活動について」等
- 千代田区内施設利用条件などまとめ
- 活動の助成金情報など

ちよ活交流会 ～千代田のお散歩の楽しみ方

「在宅の時間が増え、自宅の近隣の地域への関心が高まっている人もいる」との声から、6/28にまちあるきの活動を行っている渡辺美鈴さんをゲストに開催。

地域で活動する方の声を元に、感染症対策をしながらの活動の考え方、進め方のガイドを公開

（7/7、23）

つながりを絶やさないことを大切に、団体の活動の目的や意味を改めて確認し、専門家の知見を参考に感染症対策をしながらの運営方法を自分達で話し合って決めていく際のポイントをまとめました。
https://chiyolab.jp/archives/11558

コロナの中での新しい動きを紹介

10/18開催

#ごちそうちよだお店探訪

千代田のお店のSNS応援プロジェクト「#ごちそうちよだ」と協力し、地元の方がお勧めの地域密着の15店を、店主のお店や地域への想いから紹介するイベント

お店には町の交流の窓口の意味も。地元のこだわりのあるお店を、みんなで情報発信しながら支えていきたいと思います。

田熊清徳さん
（株）楓屋代表取締役社長　千代田区観光協会理事

10/28開催

オンラインが地域の交流にもたらすことは？

コロナで困ってる地域の外国人のために、オンライン学習会を始めたら、海外からも参加者が。地域発世界オンライン交流会に。オンライン対話イベントでは、他地域の方から「千代田は凄いね！」との声が。地域交流のPRもできました。

ちよとも、ちよだ日本語カフェ Swan　中村三千子さん

続けてきた勉強会を止めないよう、慣れない中手探りで会場とオンラインの併用で実施。町会、マンション管理、子供の活動などにも応用できるか模索する毎日。

関真弓さん　NPO都市住宅とまちづくり研究会

学校の卒業式や伝統行事のオンライン実施をお手伝いしている。課題に直面する現場の人とIT活用の得意な人が連携して行うのが大切。「こんなことできるから、一緒にしませんか？」という声かけが地域を動かすのでは。

（株）ガイアックス　チーフカルチャーオフィサー　木村智浩さん

11/8開催

地域のつながりを守るために大切なことは？

人のつながりは会議の帰り道のような隙間で生まれる。コロナでそのような隙間の時間が失われているのでは？

斎藤光治さん　神田公園地区連合町会会長、民生委員

コロナで脆弱な状況の人が千代田にもこんなにいると気付かされた。一方で「みんなが困っているから何かしたい」と言う人も多数いる。つながる場をつくっていきたい。

千代田区社会福祉協議会　梅澤稔さん

ちよだコミュニティラボライブ！2021 に向けて

2020年の地域の状況を踏まえ、オンラインでの交流の場をどう作るのか、活動する方との意見交換から、方向性を考えました。

多くの地域活動が休止や十分にできていない状況がある。
近年の地域の変化、新型コロナウイルスの影響から、千代田の地域にも活動にも新しい課題が生じている。

自分たちが地域の現場で感じている課題について、
多様な人と一緒に考えたい！ 一緒に新しい動きをつくりたい！

「問題意識を募集」に40以上が集まる

相乗効果が出るよう16の問いに整理

今、千代田で考えたい16の問い

困難な中でもつながる

1. 気さくに声かけあい、交流できる場を街中につくるには？
2. 困った時に助け合える、マンション・コミュニティを実現するには？
3. 地域活動が難しい中でも、なんとかつながり続けるには
4. 誰一人取り残さない！多様な関わり方、色々なつながりを実現するには？

多様な人が活きる

5. コロナで育児疲れ…、子育てを相談できる近くの人とつながるには？
6. 地域の力を活かして、子供たちの学び・体験の機会を豊かにするには？
7. テレワーク時代に、千代田で働くことの意味は？新しい可能性は？
8. 学生と地域が効果的につながるには？学生が地域とつながる意味は？

地域の変化、コロナの影響を越えて

千代田での暮らし・仕事・活動・学びの新しい価値を創るには？

価値を見直し、再発見する

9. 神保町を多様な人たちが協力して守り立てていくには？
10. 千代田の豊かな地域資源を知り、もっと楽しむ文化を広げるには？
11. 大人が学び続け、新しい機会に出会える千代田をつくるには？
12. “おとこ”と“おんな”のこと、今、改めて考えてみませんか？

新しい時代の価値づくり

13. 健康に暮らせる街を実現するには？
14. 地域活動でオンライン活用！高齢者こそITを使いこなす！を実現するには？
15. 千代田×SDGs、何ができるだろう？
16. 日常の食を通してSDGsに貢献するには？

ちよだコミュニティラボライブ！2021　3/13 オンライン開催で121名が参加し対話

困難な中でもつながる

1 気さくに声かけあい、交流できる場を街中につくるには？

挨拶ができる街へ

山森彩香さん
あるまっぷCHIYODA

お店をホッとできる場に

鈴木英莉那さん
CHIKYU 麹町 DELI

誰もが集える居場所を

祐成常久さん
特定非営利活動法人
生涯学習を推進する会
ふれあいサロンクローバー

気軽におしゃべりできる場を

高橋孔明さん
ちよとも

現状

- 交流の場やサロン活動は多くあるが、まとまった情報がない
- ビル内の閉じた場が多く、知らない人と居合わせ、顔見知りになれる開かれた空間が少ない
- 地域コミュニティに貢献している地元のお店が、コロナの影響もあって苦労している

CHANGE

地域への入り口となる「つなぎ役」の存在が大切

地元のお店は、会話が生まれる場という意味もある

はじめよう！

- お店などで日頃から接していることで、挨拶ができ、ちょっとした変化にも気付ける
- 地域に開かれた街の居場所をつくろう。街中のベンチをもっと活かそう
- 地域で声かけあう姿を子供たちに大人が見せていこう
- ボランティア、交流イベントなど多数ある機会に参加してみよう

2 困った時に助け合える、マンション・コミュニティを実現するには？

現状

- 住居を共にするマンション内でつながれたらいいが、プライバシー重視もあって難しい
- 千代田区は災害時は建物内残留が求められ、マンション内で対応する必要がある
- 世帯数、分譲・賃貸などマンションも多様で、　同じ対応策では難しい。投資物件など、所有者と居住者が異なる場合もある

CHANGE

配管、建替え、災害リスク、近隣地域など共同住宅で何を共有しているか見える化し、自覚を促そう

管理組合の役職は現状や居住者を知るきっかけに

マンションでのつながり方、知恵を持ち寄ろう

及川浩二朗さん
富士見在住
サンサン会代表

はじめよう！

- アンケートの実施、LINEグループなど、情報共有から始めよう
- 居住者同士で共有していることを伝えよう
- 管理組合の役職を関係づくりも考慮して割り振ろう
- エレベーター内での挨拶など小さなことも大切に
- 町会活動を通して居住者同士が知り合うことも

3 地域活動が難しい中でも、なんとかつながり続けるには？

できることをし、活動を続ける

関真弓さん
NPO都市住宅と
まちづくり研究会

町会からの情報発信を

斎藤光治さん
内神田鎌倉町会 会長

縁日に蜜を避ける工夫

津田隆弘さん
神田佐久間町
三丁目町会青年部

地区を超えて工夫の共有を

佐藤悠一さん
千代田区社会福祉
協議会

会報の福引で全員参加を

江村久さん
東神田町会青年部

現状

- 感染症対策で祭りや行事が中止や延期になり、町会も思うように活動ができていない
- オンラインを取り入れたり、感染症対策の工夫をしたイベントも行われているが、限られている
- 地域とつながれない人、つながらない人もいる

CHANGE

大事なのはつながり続けること。
できることをできる範囲で。活動に新しいアイデアを

ホームページなど地域の情報が集まる場所も大切

はじめよう！

- オープンな空間での体操（東神田松下町会）、町会報に番号をつけて福引にする（東神田町会）、こども縁日で時間帯別3種類のチラシを用意して人数がばらける工夫（神田佐久間町三丁目町会）などの地域での工夫を、地区を超えて共有していこう
- 町会はホームページで情報を発信する、住民は地域の情報を検索してみるなど、ネットを活かそう

4 誰一人取り残さない！多様な関わり方、色々なつながりを実現するには？

現状

- 光が当たることが少ない人たちへの誤解が起きたり、地域での交流が少ない状況がある
- どんなことに困っているか、どんな思いか、伝わっていない情報がたくさんある
- 何か役立ちたい人や企業もいるが、マッチングがうまくできていない

CHANGE

地域にはお互いに見えにくい状況の人がいることを意識し、まず知ることから始めよう

一緒にできる体験から相互理解を進めよう

光が当たることが少ない人たちに心を寄せよう

新井克巳さん
NPO法人
りぷりんと・ネットワーク

障がい者と地域の人の交流を広げよう

堀田徹さん
千代田区立障害者福祉
センターえみふる

外国人の方も安心して暮らせる街に

木崎もえさん
ちよだ日本語カフェ
Swan

はじめよう！

- イベントに参加してみる、ボランティアを試してみるなど先ずは出会ってみよう
- 地域の中で一緒に楽しいことを経験し、知り合っていこう。障がい者の方が働くカフェを始めたい
- 「配慮と気づかい」のあるコミュニケーションを
- 同じ立場同士のピアサポートの場も大切
- 区内に点在するリッチな社会資源をつなでいこう

多様な人が活きる

5 コロナで育児疲れ…、子育てを相談できる近くの人とつながるには？

外から見えづらい親子のストレスを知ってほしい

勝連万智さん
ちよママ

親子の居場所を広げよう

神野里砂さん
子育てサロン「セポン」

銭湯を子育て世代にも

長谷川護さん
稲荷湯

現状

- 母親学級の休止など近くの親同士が出会う機会も減り、共感できる相手や口コミ情報などにアクセスしづらくなっている
- 出掛ける機会を失ったことで、自宅以外での親子の居場所が減り、ストレスも溜まっている
- 最初の出会いがないと、オンライン交流も難しい

CHANGE

第一子の母親の孤独という課題に気付こう

子供の生活リズムにも、親のストレス軽減にも、安全な外出先や交流の場は大切

はじめよう！

- 話を聴いてくれる人と出会える機会をつくろう
- 身近な外出先を分かち合おう
- 一緒の空間にいて、ちょっとした相談もできるような居場所を広げよう
- 銭湯は利用している大人たちが暖かく見守ってくれる場。知り合いづくりのきっかけにもなる！

6 地域の力を活かして、子供たちの学び・体験の機会を豊かにするには？

現状

- 学校行事や絵画展など、子供たちの学びや体験の機会の多くがなくなっている
- 企業、特に中小企業が地域の子供たちのために役立ちたくても、接点を持ちづらい
- 新しい学びや体験の価値を学校、親などと共有するのが難しい

CHANGE

様々な職業の人が集まる千代田区だからこそ、子供の学びへの協力も、仕事に触れる機会も行える

みんなで新しい取り組みを作っていくことから、地域で子供を育てる文化を

はじめよう！

- 多様な職業があることに加え、何か役立ちたいと考えている人も多数いる。その力を地域で活かそう
- 親や先生ではない、大人と接する機会を増やし、子供の可能性を引き出す機会を増やそう
- 夏休みなどの長期休みを使って、区の多様な人が参加して子供達の教育に役立つ活動を始めてみよう
- 子供たちはどんなことに興味があるのか、しっかりと調べていくことが大事

子供が表現者となる場を千代田子ども芸術祭２０２１で

村上史郎さん
就学準備教室りりーふ

村上沙織さん
就学準備教室りりーふ

多様な職種の大人に出会える学びを

脊尾大雅さん
秋葉原社会保険労務士事務所

音楽を通して考え、表現する力を

田中麻未さん
株式会社JZENE
オトノアジト

7 テレワーク時代に、千代田で働くことの意味は？ 新しい可能性は？

千代田に通うことに新しい価値を

木村倫太郎さん
（有）神田豊島屋 取締役社長

縁ある地方とのつながりを町の価値に

丑田俊輔さん
ハバタク（株）
代表取締役
プラットフォームサービス（株）
取締役

在勤者と地域がつながる楽しさを共有したい

林昌明さん
Chee's

現状

- テレワーク、オンライン授業が進み、千代田区に通う機会が減っている
- 在勤、在学の人と地域の距離が開き、地域の活動にも参加しなくなっている
- これまでの「都心の利便性」だけでない、「千代田にいる価値」が求められるようになるのでは？

CHANGE

千代田への通学、通勤がハレの日となるような魅力の発信を

仕事や学業の隙間に「ついでに何ができるか」が大切

はじめよう！

- 千代田の町の歴史や文化を多くの人に伝えよう
- 地域活動を通じて祭りや面白いことを体験でき、自分のQOL（Quality of Life）も高まることを伝えよう
- 区内で働いている人同士が交流ができる機会を作ろう
- 通勤・通学の前後、休みの時間に地域とのちょっとした雑談や交流を広げよう。それが信頼関係の元になる
- 千代田と地方の連携から千代田の価値を高めよう

8 学生と地域が効果的につながるには？学生が地域とつながる意味は？

現状

- 学生も地域の色々な人と関係を作れる人とそうでない人がいる
- オンライン授業で物足りなさを感じている学生も多く、地域とのつながりへの期待もある
- 大人や地域は勝手に「学生らしさ」や「学生目線」を学生に期待しているのではないか

CHANGE

授業やゼミの特性を活かしつつ、学生が個人で地域に入り、信頼を構築していく経験は得るものが多い

地域で学生と地域の人が出会う場が必要

はじめよう！

- 学生と地域・大人が気軽に出会えるようなプラットフォームを作っていこう
- 行きつけのお店の店員さんや、よく見かけるお客さんに挨拶をしてみよう！それが地域活動の第一歩に
- きっかけを探している学生も多い。既に地域で活動している学生が、そうでない学生に声をかけよう
- 学生と地域に加えて、学生と企業の関係も作ろう

塚原幹斗さん
NPO法人国際ボランティア学生協会（IVUSA）

神野歌恋さん
学習サポート セージ

櫻井晃太郎さん
SDGs子供勉強会プロジェクト

在住・在学の学生の考えや動きを伝えよう

長谷川護さん
稲荷湯

島倉雄哉さん
明治大学生
note『大学授業一歩前』運営者

地域での体験を通して深まる学びを応援

杉崎和久さん
法政大学大学院
公共政策研究科教授

価値を見直し再発見する

9 神保町を多様な人たちが協力して、守り立てていくには？

珈琲×SDGs×神保町で新しい魅力を

島田剛ゼミ
明治大学
情報コミュニケーション学部

生業として古書店を続けるための都市デザインを

中島伸さん
東京都市大学准教授

遠隔授業で開いた学生と神保町の 距離を縮めたい

島倉雄哉さん
明治大学生
note『大学授業一歩前』
運営者

書店街を応援！ジェンダー本の共同企画もできれば

町田育代さん
千代田区男女共同
参画センター MIW

神保町を研究中。生きた文化財のような町

スーザン・ティラーさん
東京大学学際情報学部

建替期にある古書店街をどう継続するか、新ルールなども必要

髙山肇さん
髙山本店 神田古書店連盟顧問
千代田区商店街連合会会長

住む街、働く街、学ぶ街の融合を

青野芳久さん
神田猿楽町町会副会長

変化する町で新しいことも、古いものも活かそう

飯田加世子さん
神保町地区HP委員会

現状

- ネット販売の拡大やコロナ禍によって、書店経営は難しさが増している
- 都心の再開発で生業の店舗や街の文化を守りながら進める方法が求められる。
- 住む場所、働く場所への変化をどう活かせるか

CHANGE

神保町への思いを持つ人はたくさんいる！

町の文化と商業力の両立のビジョンが必要

はじめよう！

- 町が変化する中で良さをどうしたら守れるか、共に考える場を広げよう

10 千代田の豊かな地域資源を知り、もっと楽しむ文化を広げるには？

現状

- 千代田区には、区内外の人が気付いていない文化、歴史、自然など豊かな資源がたくさんある
- 千代田の地域資源を楽しむ書籍、アプリ等はたくさんあるが、区民らに伝わっているか？

魅力を認識し、楽しむ文化を

松沢友紀さん

地元と連携したまち歩きで、遊びを広げる

渡辺美鈴さん
CC×Tokyo

CHANGE

町の魅力を一緒に探り、共に楽しめる活動を

資源の組み合わせから新しい価値が生まれる

はじめよう！

- 自分が面白いと思うことから、周りの人に相談しながら、街中の楽しい体験の場を増やしていこう
- 小説や漫画、バーチャル、昔の絵葉書、浮世絵などを地域とつなげると多くの人が楽しめる
- 体験、交流、企画、発信など様々な連携を進めよう

千代田学成果報告

ちよダッシュ！
～バーチャル時空散歩を楽しもう！～
古地図を使って時空を超えて
楽しむアプリを開発

撮影：
浅野カズヤ

田中ゆかりさん
林直樹さん
日本大学

「和食文化体験・交流資源を活用するには？」
体験・交流プラットホームを開発

酒井治子さん
東京家政学院大学
人間栄養学部

千代田区の郷土資料を用いたWikipedia記事作成ワークショップの展開
二松学舎大学谷島ゼミ

Wifi利用状況を活用した、内濠地域におけるアドホックな賑わいの可視化
法政大学エコ地域デザイン研究センター

11 大人が学び続け、新しい機会に出会える千代田をつくるには？

ちよカレの学びの成果を地域に還元したい

山本瑠未さん
ちよだ生涯学習カレッジ

高齢者の知識、経験は社会の財産！

藤井敬三さん
NPO法人 シニア大楽
理事長

健康づくりを通して人のつながりを

今井悠人さん
作業療法士

現状

- 経験を活かしたい人、大人の学びに取り組む人は多数いる。地域でどう活かせるか探している。
- 活動への参加者を広げるためにテーマやネットワークに新しい発想が求められている。
- 高齢者の運動教室は集いの場でも学びの場でもあるが、コロナで活動が難しくなっている

CHANGE

学びの成果を地域に還元できる機会が大切

千代田という特別な地域で、自分の活動が大義につながっていると実感できることがやりがいになる

はじめよう！

- 学びの成果を発表したり、地域で活かせる機会を、協力して増やしていこう
- グループ間で相乗効果が出るようなつながり、連携をもっと広げよう
- ライトで、頻度が高い共有の機会も大切
- 対面が難しい中でオンラインも活かそう

12 "おとこ"と"おんな"のこと、今、改めて考えてみませんか？

現状

- 家事育児など身近なところで、無意識に性別役割分担を決めつけてしまっているところがある
- 気になった"もやもや"を口にしづらいことも多い
- 若い世代は"男性も一緒に子育て" が広がっている

おとこだから、おんなだから、という無意識の決めつけを自覚することから

田口裕希子さん
千代田区男女共同
参画センター MIW

CHANGE

性別と価値観の結びつきを認識し、自分の思い込みを知ることから

「男女」ではなく、個人としてお互いを尊重し合う

はじめよう！

- コロナのテレワークで夫が在宅で子育てすることで役割が変化した夫婦も。小さな実践を続けよう
- もやもや、嫌という気持ちをそのままにしないように言葉にし、お互いに声を聴きあえる場、仲間を広げよう
- 学校や保育園などでのジェンダー教育を広げよう

13 健康に暮らせる街を実現するには？

千代田学成果報告

手洗いの効果を考える
実感しづらい手洗いの効果を可視化。十分なすすぎを伴う石けんによる洗浄、エタノール消毒で感染症対策を

伊藤裕才さん
共立女子大学
家政学部
食物栄養学科
食品衛生学研究室

たばこ煙が歯周組織に及ぼす影響
喫煙が歯周組織に与える影響を明確にすることで、歯科医療にも禁煙指導の大切さを広げたい

中西生美さん
日本歯科大学
附属病院・
総合診療科

心の健康増進・精神疾患予防を行うには?
コロナは生活習慣病やメンタル面のリスクにも影響が。開発した「心の健康増進・精神疾患の発症予防のためのワークブック」を区民、在勤者に活用いただきたい

島崎崇史さん
上智大学文学部
保健体育研究室

人生の最後の時まで自分らしく生きるためには ～ ACP（人生会議）の普及啓発活動、プログラム開発
健康なうちから人生の最期の時期の過ごし方を話し合う「人生会議」を地域の人と共に広げていきたい

田口理恵さん
共立女子大学看護学部
地域在宅看護学領域

現状

●健康は大きな関心事になる中、千代田区と区内大学の連携による千代田学では、健康に関する研究も多く行われている。

CHANGE

健康に関する情報は日々、更新されるので最新の情報を得ることが大切

はじめよう！

●区内でアクセスできる健康情報をチェックしよう

15 千代田×SDGs、何ができるだろう？

インドネシアとのオンラインでの交流や学びを実施

佐藤静香さん
NPO法人地球の友と歩む会

ICTを活かし、桃農園のスマート農業を促進

野口陽介さん
（株）東和エンジニアリング
東和AGワークス（株）

避難生活に役立つ「カトー折り」

加藤祐一さん
カトー折り研究所主宰
千代田エコシステム
推進協議会会員

千代田学成果報告

コミュニティサイクルの効率的な活用方法の検討
コミュニティサイクルを含む自転車利用者の安全性向上の検討

岩尾ゼミ
専修大学

現状

●区内でもSDGsの取組みが多数始まっているが、周りから見えづらく、認知されていない
●SDGsと自分の活動を結び付けづらい人も多い
●コロナで従来通りの国際交流や国際貢献が難しい

CHANGE

区内のSDGsの取組みを見える化する

防災、自転車利用、食など生活にも、ICTなど企業の資源や技術にもSDGsは深く関わっている

はじめよう！

●SDGsに関する取組みの情報を集め、地域全体としての動きも発信していこう
●国際交流を行ってきた団体によるオンライン・スタディツアー、ドローンでの監視システムやAIなど農業でのICT企業の技術の活用など、企業や団体の経験をSDGsに結び付けて考える機会をつくっていこう

新しい時代の価値づくり

14 地域活動でオンライン活用！高齢者こそITを使いこなす！を実現するには？

現状

●コロナの中で集いの場の多くが休止になったことでオンラインの活用も始まっている。
●高齢者もオンライン会議などへの関心は高い
●IT機器の設定の難しさ、使い方のサポートがないことで使えずにいる人も多い

CHANGE

オンライン・ツールを使うことで普段会えない人、新しい人とつながることができる

個々の状況に個別に応じるサポートが必要

はじめよう！

●人と話したい気持ちを大切に、つながる機会としてのオンラインツールを活かそう
●機種、IT環境、ITツールへの慣れ、恐怖心などは人によって異なることを理解し、一括りでないサポートを
●企業との連携によるITボランティアを広げよう
●かつてはアマチュア無線がSNSの役割を担っていた。高齢者の方の経験や知識の社会還元も大切

オンラインには広がる可能性も話しづらいことも

丸橋千加子さん
家族介護者
サロン♡ランプの灯

高齢者も「IT機器を使いこなしたい！」を応援したい！

及川早苗さん
健康づくりを楽しむ会

ボランティアでIT活用をサポート

須藤将太さん
（株）セールスフォース・ドットコム

丸野遥香さん
（株）セールスフォース・ドットコム

オンラインで高齢者の知恵や技術の継承を

小林大輔さん
秋葉原無線部

16 学生と地域が効果的につながるには？学生が地域とつながる意味は？

現状

●SDGsを知る人は増えているが、自分事にし、日常の中で行動につなげる人は、まだ少ない
●食材の廃棄などフードロスへの関心は高い
●気候変動の中で環境負荷の大きい肉を食べないミートフリーの活動が始まっている

CHANGE

食を通して、環境・健康・作る責任/使う責任などSDGsに貢献しよう

月1回、週1回から始めてみよう

食からさらに意識を広げ、SDGsを身近に考え、生活全般で持続可能な選択にかえよう

はじめよう！

●週1回、肉を食べない「ミートフリーマンデー」のような生活で続けてできることを始めよう
●フードロスをなくすために生活でできることはたくさんある。同時に、仕組みを変えることにも取り組んでいこう。
●区内の団体同士の連携、企業の社食、大学・学校の学食との連携などつながって活動していこう

SDGsの達成へミートフリーへの関心を高めたい

櫻井真紀さん
SDGs子供勉強会
プロジェクト

食育とSDGsをつなぐ活動を連携して進めたい

堀口美恵子さん
大妻女子大学
食育ボランティアグループ
「ぴーち」